

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192005999		
法人名	株式会社 健康倶楽部		
事業所名	あすなるの家 (1F あやめ)		
所在地	小樽市幸2丁目22番3号		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192005999-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192005999-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節ごとの行事を行い、季節感を感じて頂いています。また自然環境を活かし、家庭菜園やサクランボ狩り・イチゴ狩りなども行っています。  
庭の東屋もあり天気の良い日には昼食会も行い、楽しみながら気分転換して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は眺望の良い丘の上の住宅街に在る鉄筋コンクリート造り地上2階、地下1階の建物で、1階に「あやめ」と2階に「すみれ」のユニットがあり、隣接して同法人が運営する「グループホームあすなる」がある。事業所合同の「あすなる祭り」には、地域住民や利用者家族も多数参加して交流し、町内のお祭り等でも交流を深めていたが、コロナ禍により自粛している。職員資源回収などに参加して地域と交流している。事業所そばには東屋が有り、天候や感染症対策を施して、休息の場になっている。隣接している町内会館で、幼稚園児のお遊戯の発表会があり、利用者との交流を深めていたが、コロナ禍で中止している。共用空間の居間は、南向きで明るく、温・湿度などが適正に調整され、大きな窓からは、遠くの山々や市街地を望むことができ、季節の移り変わりなどを満喫することができる。居間の壁には、季節感のある装飾をふんだんに飾り、全体的に家庭的な雰囲気を出している。職員は、各種委員会、外部、内部研修に参加して、質の高いサービス支援の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内の掲示板に貼り、いつでも目に触れる事が出来る様になっています。またあすなる便りにも提示しています。	地域密着型のホームとして掲げている事業所理念は玄関や各ユニットに掲示されている。ケアの中で 迷ったときなどは理念に立ち返って考え、実際の支援に生かすよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、町内行事の参加は出来ませんが、資源回収には参加しています。	コロナ禍の為に、町内行事やお祭り等での交流は自粛されている。事業所発行の「あすなる便り」を回覧に盛り込み、事業所と地域の接点を保つために努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての研修を行っています。また支援方法などの話し合いを行い、それを活用しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症についての研修を行い、支援方法についても地域貢献を行えるよう話し合いを行い、活用しています。	会議は年6回開催しているが、コロナ禍により書面会議として開催している。書面会議で運営状況の報告や避難訓練の報告等を会議録にまとめ、各委員に送付し、意見や助言を得てケアに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、担当の課に連絡をし、協力を得ています。	市担当者とは、事業所の実情やケアサービスの取り組みを、電話でやり取りしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者・職員が基準における対象となる具体的な行為を正しく理解し、玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会と虐待防止委員会があり、会議の結果を内部研修で行いながら、身体拘束の弊害や 具体的禁止行為、不適切な言動について正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来る限り研修に参加し、高齢者虐待防止法を学び、職員間でディスカッションを行い日々のケアに活かしています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついている方がおります。コロナ禍もあり、来訪は控えて頂いていますが、都度身体状況報告をしています。また後見人より様子確認の電話も頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退去後も入院先に出向き、身体状況等の確認に行っています。また家族からの相談事には退居後も連絡を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍もあり、家族と直接お会いする事がない状況ですが、電話等で家族からの意見・要望、また利用者の意見・要望を記録し、職員間で申し送り把握に努めています。	利用者からは、日々の暮らしの中で意向や希望を把握している。コロナ禍以前は、運営推進会議にて家族から意見や要望を得ていたが、現在は、電話や来訪時（感染症予防の規制の下）に利用者の生活状況を伝え、意見等を得ながら、運営に活かしている。	コロナ禍により家族と利用者の面談が無い場合フラストレーションがたまる一方と思われる。通信環境（Wi-Fi）を整備しタブレットやスマホを用いたライブ対面等で解消できると考えられるため、利用者家族の意見を聞きながら、母体法人に提案し、実現に向けた行動を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所、フロア会議等での意見を管理者がまとめ、毎月の管理者会議で議論、結果を事業所にフィードバックしている。管理者で判断がつかない場合など状況に応じて取締役による個人面談実施している。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、朝夕の申し送り時やユニット会議で話を聴くようにしている。職員の個人面談は2月と9月の年2回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、取締役会議に全部門の月次収支を把握、勤務状況は勤務表にて確認している。これらをもとに待遇面では、職責に応じた給料の決定、及び処遇改善を毎月支給すると共に、業績や職責に応じた賞与を年2回支給しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に小樽市グループホーム連絡協議会の副会長がおり、年3回の研修の立案・調整を行いながら職員の参加を促している。外部との連携により兼風以外に、グループ2社で委員会を実施し合同の研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上、職員が地域の協議会を担う事で、同業者とのつながりを構築し、同時に外部との交流を図れるよう支援している。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話しかけ、相談してもらえるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さな不安も聞き入れ、時には家族にも協力頂きながら、信頼関係を作って行くよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安や要望を聞き、必要な事は何かを話し合い、今後の支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を把握し、出来る事を見極めお手伝い等をお願いしています。出来ない事を支援し関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告を密にし、信頼関係を築き家族と一緒に支援して行けるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍によりホーム内での面会は控えて頂いていますが、要望によりドア越しでの面会でお話し出来る機会を作っています。	現在はコロナ禍で面会や外出支援を自粛しているため、利用者の希望に合わせて電話で馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。感染症の予防を施しながら、玄関ドア越しで面会が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、利用者同士の関わりがもてる様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院先に出向き、身体状況等の確認に行っています。また家族からの相談事には退居後でも連絡を頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より利用者の会話や様子から、意見・要望を聞き把握出来るようにしています。	職員が、毎日の何気ない会話や仕草等から本人の思いや意向を把握している。意思表示の困難な利用者からは、家族からの情報やケア場面等、生活の中での行動を判断し利用者の気持ちに沿ったサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フロアー内に情報等をファイリングし、いつでも確認出来る様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りで行動や状況を話し合い、現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いで、意見・要望を聞き、必要な支援が出来るよう努めています。	短期6ヶ月、長期1年で介護計画を見直している。日々の関わりやケア記録を基に、職員で話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成している。心身の状態変化時は、変化に応じた見直しと現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を職員間で情報共有し、看護師・主治医の意見も聞き入れ本人に合った介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	次のプランに活かすよう、利用者個々の生活の様子を記録しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度は、コロナ禍により出来ませんでした。例年は、町内のお祭りや行事に参加させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新たな病院を受診する時は、本人・家族と相談。必要な料を決めています。また受診結果を家族に報告しています。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診時はできる限り職員が同行し、医師との連携を図り、適切に医療が受けられるよう支援している。協力医による2週間で1回の訪問診療があり、常勤看護師による利用者の健康管理を支援している。	

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へその都度報告し相談・指示を受けています。また主治医にも身体状況を詳しく伝えていきます。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医に、その方の身体状況や治療内容を伺い、状況を把握すると共に、相談を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時、週末期の意向を家族と話し合い、その際ホームで出来る事を詳しく説明し、納得を得ています。その意向も主治医にも伝え、協力も得ています。	重度化した場合における指針に関する指針を作成し、利用者と家族に説明し、理解を得ている。終末期には家族も含めて医師と相談し、介護計画を見直しながら看護師の指導の下で適切なケアができる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロア内に応急処置のマニュアルを置き、職員全員が対応できるようにしています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っていきます。	昼夜の災害を想定した避難訓練を年2回実施している。隣接している町内会館は地域の避難場所となっているが、事業所も町内の一時避難場所となっている。一時避難場所としての役割もあり、備蓄品を増やしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の自尊心・人格を配慮し、本人に聞こえる声の大きさ・距離を心掛けています。	職員は研修で学び、利用者のプライバシーを確保し気持ちに寄り添った対応をしている。排泄や入浴時は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮して業務を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を発信しやすい状況に努め、個々の関わりから思いをくみ取り、本人が決定するよう努めています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合った生活リズムを優先し、希望に添えるようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の好みに合わせるよう、季節・気候に合った服装へと配慮しています。			

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事を把握し、力量に合ったお手伝いを行って頂いています。テーブル拭き・おしぼり配り・食器拭き・食器片づけ・食器すすぎ等お願ひし、時には盛り付け、野菜の皮むきも願ひしています。	献立や食材の購入は業者に依頼し、調理はホーム内で職員が行っている。利用者の状況や意思に応じて、調理の下ごしらえや食器拭き等の後片付けを職員と一緒にしている。鍋パーティーや焼き肉パーティーを催す等食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量・水分量を確認、チェック表に記入して個々の状態を把握しています。水分量が少ない時は、その都度個々の好まれる物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。力量を把握し、見守りや介助も行っています。夕食後、義歯の方は、義歯洗浄剤を使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握し、声掛けにてトイレでの排泄を促して自立に向けた支援を行っています。時には、排泄チェック表を活用する時もあります。	利用者全員の排泄状況を把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレ排泄を支援している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳を提供しています。便秘の時は看護師・主治医に相談して下剤の調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めさせて頂いています。個々の希望を取り入れ状況に合った入浴の支援を行っています。	入浴は週2回で午前・午後入浴を基本としている。ひのき造りの浴槽が、浴室の真ん中にあり、介助する職員は負担なく容易に入浴させることができる。希望により同性介助を行う他、入浴が苦手な利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、状況に応じて自室・ソファなどで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬も内容を確認し、把握出来る様にフロア内に説明書保管。薬セットは複数の職員は確認、服用時声を出し読み上げ、確認してから服用。飲み込みまでまで確認したいです。服用後はチェック表に捺印、空き袋も再度確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした活動・お手伝い・役割を見つけ職員とコミュニケーションをとりながら、張り合い・喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		

あすなろの家（1F あやめ）

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、外へ出る機会を増やすようにしています。外で食事やオヤツを摂ったり、敷地内でサクランボ狩りなど行っています。	コロナ禍により外出支援は自粛しているが、事業所周辺の庭や東屋等で外気浴をしたりして気分転換が出来るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に応じ支援しています。本人の希望の物を購入出来るよう援助しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時や、定期的に電話のやり取りをされる方がおり、状態に応じて、職員が取り次をしています。手紙のやり取りも本人の希望に添い支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて、光の調整・室温・湿度の調整・換気を行っています。不快な大きな音が出ないように気を付けています。	リビングから山々や市街地が見渡せ、清々しい雰囲気を感じ出している。共有空間には加湿器が2台あり、温度や湿度の管理、定期的な換気、アルコール消毒等感染症予防に努めている。昨年の夏は酷暑のため、エアコン導入を検討している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子を置いて、自由に座りテレビや新聞等を見たり、状況に応じて座る場所を誘導して、落ち着いて過ごせるよう7にしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用されていた家具等を持って来て頂き、落ち着いて過ごして居心地が良くなるよう努めています。	利用者と家族はできるだけ自宅と同じような環境にするため、使い慣れた家具や衣類、好きな物を多く持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事・わかる事を把握して、職員見守りのもとで、環境整備にも気をつけながら、少しでも自立した生活が送れるよう支援しています。			